

# 26年3月期 上半期 連結業績について

執行役員 常務  
岡 恭彦

2025年10月29日

Copyright © SCSK Corporation

## 26年3月期 上半期連結業績

- ・ 業績概要(PL・受注高・受注残高)
- ・ (参考)業績概要 プロフォーマ
- ・ 売上高の増減
- ・ 営業利益の増減分析
- ・ 受注高・受注残高の増減
- ・ セグメント別業績(売上高・営業利益・営業利益率)
- ・ セグメント別業績(受注高・受注残高)
- ・ セグメント別業績 増減分析

## Appendix

- ・ 業績概要(PL・受注高・受注残高)第2四半期期間
- ・ (参考)業績概要 プロフォーマ 第2四半期期間
- ・ 26年3月期 売上区分別(売上高・受注高・受注残高)
- ・ 26年3月期 業種別売上高

## 26年3月期 上半期決算 業績概要(PL・受注高・受注残高)

SCSK

(単位:百万円)

	25年3月期	26年3月期	増減額	増減率
売上高	251,523	371,279	119,755	47.6%
売上総利益	65,869	101,147	35,277	53.6%
売上総利益率	26.2%	27.2%	1.1%	
販売管理費	△ 38,390	△ 61,446	△ 23,056	60.1%
その他収益及び費用	△ 520	1,905	2,426	
営業利益	26,958	41,606	14,647	54.3%
営業利益率	10.7%	11.2%	0.5%	
親会社の所有者に帰属する 中間利益	19,237	35,614	16,377	85.1%
EBITDA※	37,976	59,157	21,180	55.8%
受注高	247,880	364,108	116,228	46.9%
受注残高	183,936	307,002	123,065	66.9%

※EBITDA: 営業利益 + 減価償却費及び償却費

Copyright © SCSK Corporation 2

26年3月期 上半期の連結業績は、前期比、  
売上高 47.6%増収の3,712億円、  
営業利益 54.3%増益の416億円  
中間利益 85.1%増益の356億円  
と、増収増益の決算となりました。

なお、中間利益につきましては、アルゴグラフィックスの株式売却益を計上した影響により、営業利益に比べて増益率が大きくなっております。

また、EBITDAは、前期比55.8%増の591億円となりました。

受注高および受注残高はネットワンの実績も含め、受注高は46.9%増加の3,641億円、受注残高は66.9%増加の3,070億円です。

(参考)26年3月期 上半期決算 業績概要 プロフォーマ



(単位:百万円)

	25年3月期				26年3月期				増減額 (B-A)	増減率
	SCSK	ネットワ ン システムズ	統合関連費用等 (PPA含む)	合計(A)	SCSK	ネットワ ン システムズ	統合関連費用等 (PPA含む)	合計(B)		
売上高	251,523	100,819	—	352,343	267,190	104,088	—	371,279	18,935	5.4%
売上総利益	65,869	26,236	—	92,105	73,207	27,940	—	101,147	9,041	9.8%
売上総利益率	26.2%	26.0%		26.1%	27.4%	26.8%		27.2%	1.1%	
販売管理費	△ 38,390	△ 17,261	—	△ 55,651	△ 41,267	△ 16,666	△ 3,511	△ 61,446	△ 5,794	10.4%
その他収益及び費用	△ 520	259	—	△ 260	117	1,787	—	1,905	2,166	
営業利益	26,958	9,234	—	36,193	32,057	13,061	△ 3,511	41,606	5,413	15.0%
営業利益率	10.7%	9.2%		10.3%	12.0%	12.5%		11.2%	0.9%	

Copyright © SCSK Corporation 3

まず、連結プロフォーマベースでは売上高5.4%の増収、営業利益はPPA等の統合関連費用を含めて15.0%増益となりました。

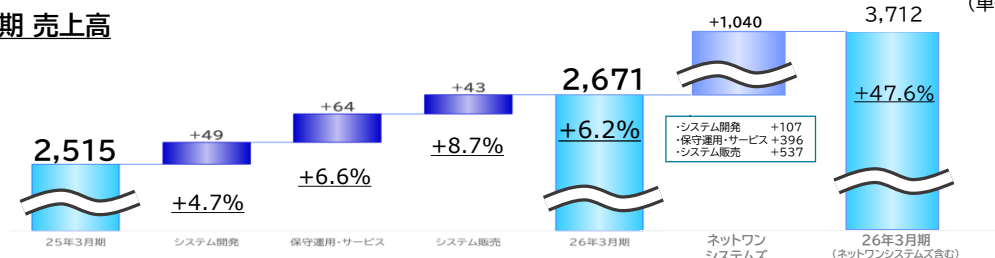
その他収益および費用の区分にて、SCSKでは不動産売却益の剥落や前期にPROACTIVEの除却損があった事、また、NOS側では今期の1Qの計上をした訴訟の和解成立に伴う戻り益などがあり、大きく増益しておりますが、これらの一過性の要因を除いても、SCSK、NOSともに、増収・増益、また、営業利益率も向上しており、この上半期は堅調な決算であったと捉えております。

## 26年3月期 上半期決算 売上高の増減

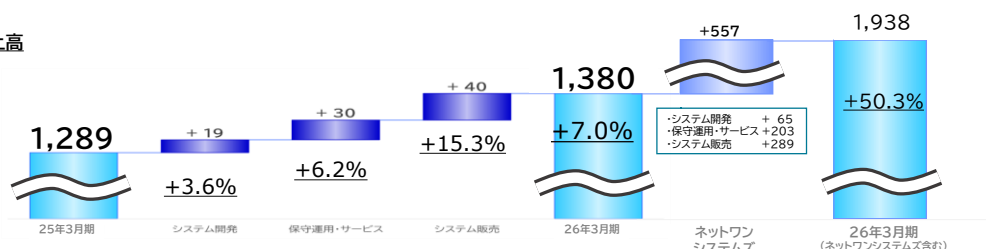
SCSK

### 上半期 売上高

(単位:億円)



### 2Q 売上高



Copyright © SCSK Corporation 4

まず、上半期のNOSを含まない売上高3区分の増減をご説明します。

システム開発は、流通業や信販リース業向け案件の反動減がありました。自動車業などの製造業向けの開発案件や通信業向けの案件等が増加し、前期比で+4.7%の増収となりました。

次に、保守運用・サービスは、BPOビジネスの減少がありました。マネジメントサービスや検証サービスが堅調に推移したこと、また、EC事業における新規連結の加算分があったことで、+6.6%の増収となりました。

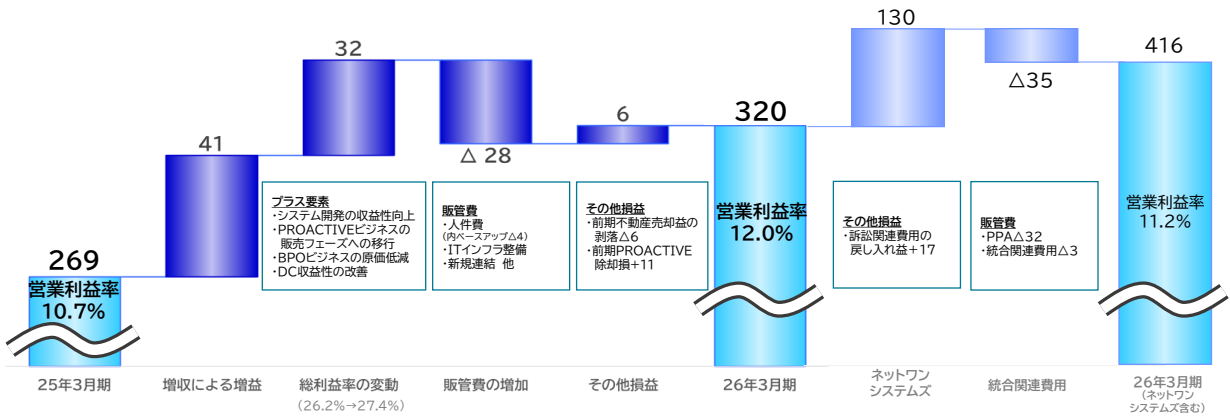
システム販売については、特定顧客向けのプロダクトの選別によるネットワーク機器販売の減少がありました。セキュリティ製品販売や大型ハードウェア販売の増加によって、+8.7%の増収となり、この上半期では売上高3区分全てが増収となりました。

これに自治体を中心にパブリックセグメントが伸長したNOSの売上高1,040億円を加えて3,712億円、+47.6%の増収となりました。

26年3月期 上半期決算 営業利益の増減分析

SCSK

(単位:億円)



Copyright © SCSK Corporation 5

営業利益の増減要因となります。

中央から左半分がこれまでのSCSKとなります。

まず、増収に伴う増益は、41億円となりました。

総利益率の変動については、主にはシステム開発の利益率が向上したことや、今期より投資フェーズから販売フェーズへと移行したPROACTIVEビジネス、および、BPOビジネスの原価低減に加え、データセンターの収益性改善によって32億円の増益となり、売上総利益率は、+1.2%向上しました。

販売管理費は、+28億円の増加となり、要因はスライド記載の通りですが、主にはベースアップや昇給・昇格、人員増等による人件費の増加となります。

また、その他損益における、前期の不動産売却益6億円の剥落やPROACTIVE除却損11億円も含め、営業利益は+50億円増益の320億円、営業利益率12.0%となりました。

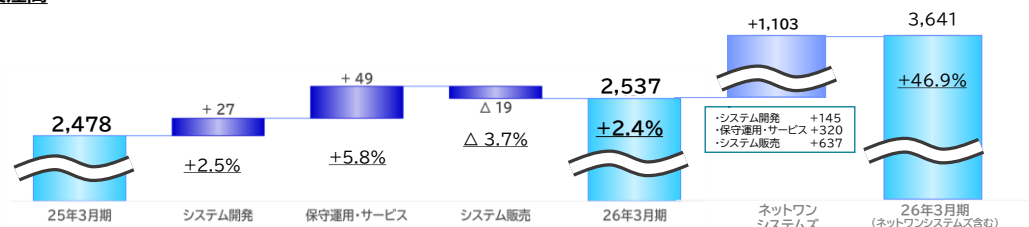
この結果に、先ほど触れた、1Qに計上した訴訟関連の一過性利益17億円を含み、パブリックセグメントを中心に増収増益のNOSの営業利益130億円を加算し、PPA償却費及び統合関連費用△35億円を差し引き、営業利益は+146億円増益の416億円、営業利益率11.2%となりました。

## 26年3月期 上半期決算 受注高・受注残高の増減

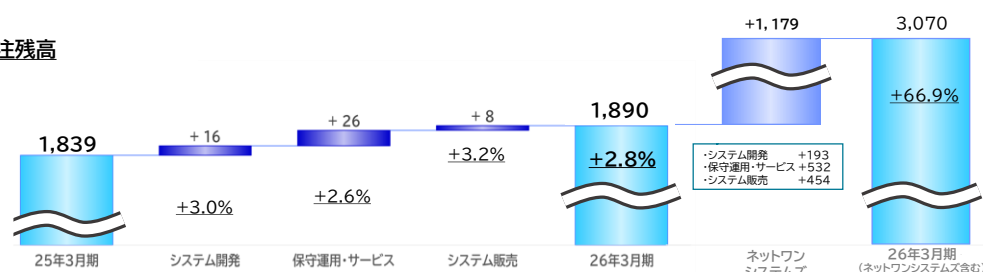
SCSK

受注高

(単位:億円)



受注残高



Corporation 6

受注高・受注残高の売上区分ごとの増減です。NOSの数字を除いた3区分にて、ご説明いたします。

まず、システム開発は、流通業や証券業の反動減、また、自動車業や生損保業向け開発案件において契約期間のズレの影響が減少要因となりましたが、製造業や通信業向けのシステム構築案件を中心に増加し、受注高は+2.5%の増加、受注残高は+3.0%の増加となりました。

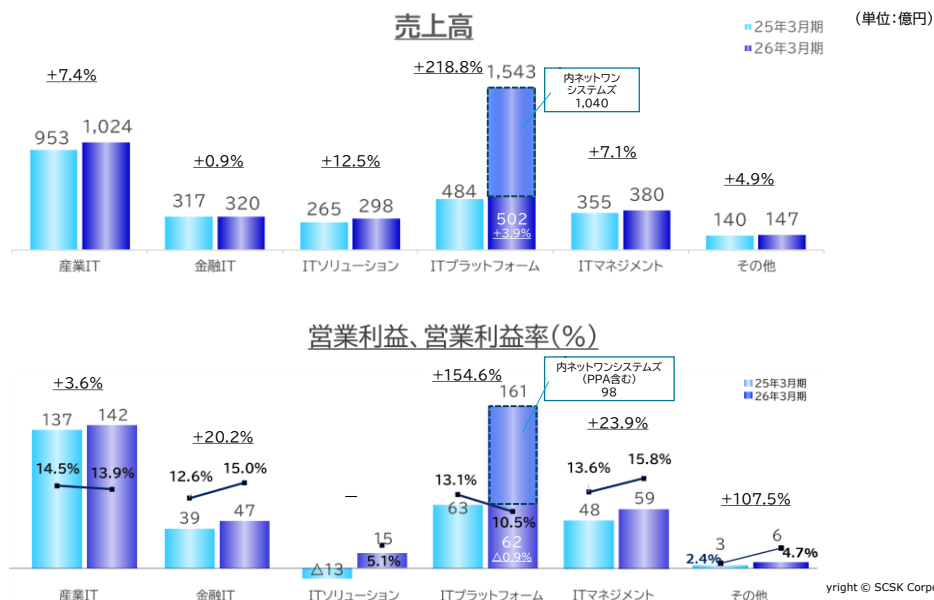
保守運用・サービスについては、検証サービスの伸び率が低減していることやBPOビジネスでの反動減はありましたが、マネジメントサービスやデータセンター事業が堅調に推移したことに加えて、EC事業における新規連結の積み上げがあったことなどにより、受注高は+5.8%の増加、受注残高は+2.6%の増加となりました。

システム販売は、セキュリティ製品が増加しましたが、通信業の特定顧客向けのプロダクトの選別によるネットワーク機器販売の減少により、受注高は△3.7%の減少となりました。一方、受注残高は、受注高と同様にプロダクト選別の影響を受けましたが、前期に受注したHPCなどのハードウェア製品によって、+3.2%の増加となりました。

なお、ネットワンシステムズの受注高、受注残高は、セキュリティ需要を捉え、パブリックセグメントが伸長しております。スライドに記載の通り、受注高で1,103億円、受注残高で1,179億円となっております。

## 26年3月期 上半期決算 セグメント別業績(売上高・営業利益・営業利益率)

SCSK



セグメント別業績になります。

まず産業ITは、流通業向けで案件の収束が見られたものの、自動車業界向けやデジタルサプライチェーン事業における製造業顧客からの案件が増加したほか、通信業におけるシステム開発投資需要の拡大による案件増加で、増収となりました。一方、営業利益は、上期では増益であったものの、検証サービス事業において、相対的に利益率の高い顧客の投資低減影響等により、第2四半期間では減益となっております。

次に、金融ITは、銀行業や証券業から案件が獲得できたものの、損保・生保業向け案件の減少の影響があり、前年度並みとなりました。一方、営業利益については、連結子会社の業績が寄与したことに加え銀行業や生保向けの案件の採算性が向上したことにより、利益率が改善し増益となっております。

続いてITソリューションです。EC関連ビジネスでの新規連結が寄与したことやPROACTIVE事業での案件が堅調に積みあがったことで、BPOビジネスでの一部契約終了による減少分を吸収し、増収となりました。この増収効果に加え、前期に発生した除却損の反動もあり、増益となりました。

続いて、ITプラットフォームは、複数の業種に対し、セキュリティ製品販売が堅調に推移した事により、特定顧客向けのプロダクトの見直しに伴うネットワーク機器販売の減少分を吸収し、増収となりましたが、第2四半期期間に複数の低採算のセキュリティ製品販売があったため、営業利益率は前期に比べ低下しております。尚、ネットワークシステムズの連結加算による影響額は訴訟関連費用の戻入れやPA償却費を含んでおり、売上高1,040億円、営業利益98億円となりました。

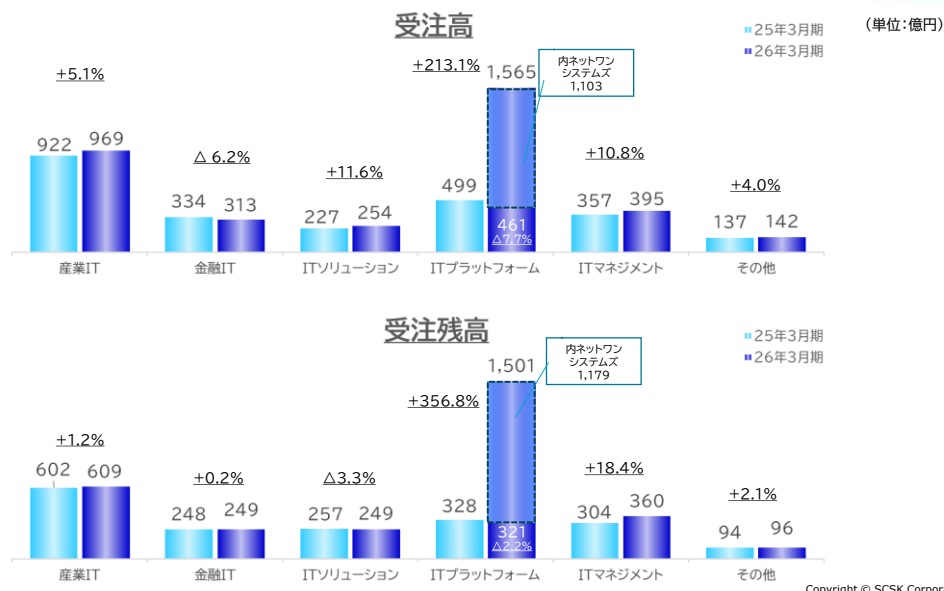
次にITマネジメントですが、製造業や金融業の顧客を中心にマネジメントサービスの取引が増加したこと、またクラウドサービスでは流通業顧客にライセンス販売が増加したことから、増収となりました。なお、第2四半期においては、前期の製品販売の剥落影響等により、増収幅は限定的なものとなっております。一方、営業利益については増収効果に加え、データセンターサービスの収益性改善が寄与



したことで利益率向上し、増益となりました。

## 26年3月期 上半期決算 セグメント別業績(受注高・受注残高)

SCSK



セグメントの受注高・受注残高をご説明します。

まず産業ITにつきましては、流通業向け案件の収束の影響があったものの、電機業向けをはじめとする各種製造業や通信業からのシステム開発案件の積み上げにより、受注高は5.1%の増加となりました。受注残高は流通業向け案件の収束や検証サービス案件が減少したことにより、1.2%の増加と前年並みになりました。

金融ITの受注高につきましては、証券業向けや信販・リース業向け開発案件の収束が影響し、銀行業向けの老朽化対応や国際決済対応案件を継続して獲得できたものの、6.2%減少となりました。一方、受注残高は受注高で見られた減少要因もありましたが、前期末に年間契約となった損保業向け案件の影響もあり前期並みとなりました。

ITソリューションにつきましては、PROACTIVE事業で新規顧客からの案件獲得があったことに加えて、EC関連事業における新規連結の影響により受注高は11.6%増加しました。一方受注残高は受注高の増加要因はあったものの、BPOビジネスにおいて一部顧客の解約や業務縮小等があったため、3.3%の減少となりました。

ITプラットフォームは、1Qに引き続き特定顧客向けのプロダクトの選別によりネットワーク機器販売が減少となりましたが、ネットワークシステムズを加算した結果、受注高、受注残高ともに大幅増加となりました。

尚、ネットワークシステムズの連結に伴う影響額は受注高+1,103億、受注残高+1,179億円となっております。

ITマネジメントは、データセンターサービスの需要が増加したことやマネジメントサービス案件の積み上げが寄与し、受注高は+10.8%、受注残高は+18.4%の増加となりました。尚、2Q期間の受注高が減少しておりますが、これは前四半期にてデータセンター向け案件を複数受注したこと、およびマ

ネジメントサービスにて第1四半期の期間集計の修正を行ったことによるものです。

26年3月期 上半期決算 セグメント別業績 増減分析



セグメント	売上高	営業利益	受注高・受注残高
産業IT	(+)自動車業向け戦略的投資需要 (+)デジタルサプライチェーン案件の増加 (+)通信業向け案件の拡大 (-)流通業向け案件の減少	(+)自動車業向け案件の寄与 (+)デジタルサプライチェーン案件の寄与 (+)通信業向け案件の拡大 (-)流通業向け案件の減少 (-)検証サービスにおける投資低減	(+)電機業、通信業向け案件の増加 (-)流通業向け案件の減少 (-)検証サービスにおける投資低減
金融IT	(+)銀行業、証券業向けシステム開発案件の拡大 (-)生損保業向け案件縮小	(+)連結子会社の業績改善 (+)銀行業、生損保業向け案件の採算性向上	(+)銀行業向けシステム開発案件の増加 (-)証券業、信販・リース業向け案件の減少
ITソリューション	(+)新規連結によるEC関連案件の増加 (+)PROACTIVE事業の拡大 (-)BPOビジネスの一部顧客の解約等	(+)新規連結によるEC関連案件の増加 (+)PROACTIVE事業の収益性改善、前期除却損の反動増 (-)BPOビジネスの一部顧客の解約等	(+)新規連結によるEC関連案件の増加 (+)PROACTIVE事業からの案件の増加 (-)BPOビジネスの一部顧客の解約等

※(+):増加要因 (-):減少要因

Copyright © SCSK Corporation 9

26年3月期 上半期決算 セグメント別業績 増減分析



セグメント	売上高	営業利益	受注高・受注残高
ITプラット フォーム	(+)複数の業種向けセキュリティ製品販売の増加 (+)新規連結によるシステム販売の増加 (-)通信業の特定顧客向けの機器販売減少		(+)新規連結によるシステム販売の増加 (-)通信業の特定顧客向け機器販売減少
IT マネジメント	(+)マネジメントサービスの増加	(+)データセンターの収益性改善	(+)マネジメントサービスの需要増加 (+)データセンター案件の増加
その他	(+)SCSK Minoriソリューションズのシステム開発案件増加	(+)セールスマックスの改善	(+)SCSK Minoriソリューションズのシステム販売案件増加 (-)SCSK Minoriソリューションズの保守運用サービス案件減少

※(+):増加要因 (-):減少要因

Copyright © SCSK Corporation 10

# Appendix

26年3月期 上半期決算 業績概要(PL・受注高・受注残高) 第2四半期期間



(単位:百万円)

	25年3月期	26年3月期	増減額	増減率
売上高	128,980	193,804	64,824	50.3%
売上総利益	34,532	52,362	17,829	51.6%
売上総利益率	26.8%	27.0%	0.2%	
販売管理費	△ 19,297	△ 31,073	△ 11,776	61.0%
その他収益及び費用	△ 1,191	206	1,397	
営業利益	14,044	21,495	7,451	53.1%
営業利益率	10.9%	11.1%	0.2%	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	10,015	22,198	12,183	121.6%
EBITDA※	19,585	30,686	11,101	56.7%
受注高	132,144	191,005	58,860	44.5%
受注残高	183,936	307,002	123,065	66.9%

※EBITDA: 営業利益 + 減価償却費及び償却費

Copyright © SCSK Corporation 12

(参考)26年3月期 上半期決算 業績概要 プロフォーマ 第2四半期期間



(単位:百万円)

	25年3月期				26年3月期				増減額 (B-A)	増減率
	SCSK	ネットワン システムズ	統合関連費用 (PPA含む)	合計(A)	SCSK	ネットワン システムズ	統合関連費用 (PPA含む)	合計(B)		
売上高	128,980	55,111	—	184,091	138,018	55,786	—	193,804	9,713	5.3%
売上総利益	34,532	13,954	—	48,486	37,822	14,539	—	52,362	3,875	8.0%
売上総利益率	26.8%	25.3%		26.3%	27.4%	26.1%		27.0%	0.7%	
販売管理費	△ 19,297	△ 8,822	—	△ 28,119	△ 20,969	△ 8,306	△ 1,796	△ 31,073	△ 2,953	10.5%
その他収益及び費用	△ 1,191	515	—	△ 676	36	169	—	206	882	
営業利益	14,044	5,647	—	19,691	16,889	6,402	△ 1,796	21,495	1,804	9.2%
営業利益率	10.9%	10.2%		10.7%	12.2%	11.5%		11.1%	0.4%	



26年3月期 上半期決算 売上区分別(売上高・受注高・受注残高)



システム開発

						(単位:百万円)
25年3月期		26年3月期	増減額	増減率		【参考】 26年3月期 (NOS)
売上高	103,835	119,466	15,630	15.1%		10,723
	53,107	61,536	8,428	15.9%		6,507
受注高	109,249	126,623	17,373	15.9%		14,594
	55,233	65,710	10,476	19.0%		7,194
受注残高		56,500	77,512	21,012	37.2%	19,341

- 売上高
- ・通信業や電機業向けのシステム開発案件の増加
- ・自動車業向けの戦略領域への投資需要の拡大
- ・流通業、信販・リース業向け案件の反動減
- 受注高・受注残高
- ・通信業や電機業向けのシステム開発案件を中心に増加
- ・流通業、証券業向け案件の反動減

※コメントは、ネットワンシステムズ分の増減要因を除く

26年3月期 上半期決算 売上区分別(売上高・受注高・受注残高)



保守運用・サービス

25年3月期		26年3月期	増減額		増減率	(単位:百万円) 【参考】 26年3月期 (NOS)
売上高	97,988	144,045	46,057		47.0%	39,611
	49,666	73,071	23,405		47.1%	20,311
受注高	85,946	122,981	37,034		43.1%	32,039
	46,967	63,648	16,681		35.5%	16,607
受注残高	101,649	157,485	55,836		54.9%	53,224

- 売上高
- ・新規連結によるEC関連案件の増加
  - ・マネジメントサービスの増加
  - ・BPOビジネスの一部顧客の解約等
- 受注高・受注残高
- ・新規連結によるEC関連案件の増加
  - ・マネジメントサービスやデータセンターの増加
  - ・BPOビジネスの一部顧客の解約等

※コメントは、ネットワンシステムズ分の増減要因を除く

26年3月期 上半期決算 売上区分別(売上高・受注高・受注残高)



システム販売

(単位:百万円)

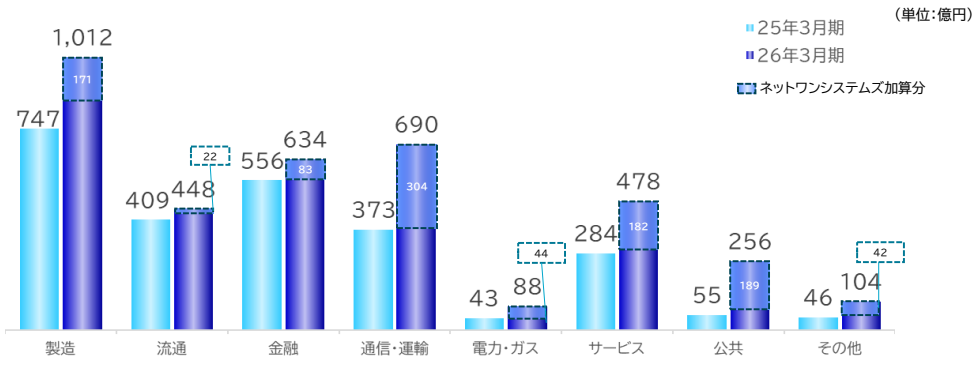
	25年3月期	26年3月期	増減額	増減率	【参考】 26年3月期 (NOS)
売上高	49,699	107,767	58,067	116.8%	53,754
	26,206	59,196	32,989	125.9%	28,968
受注高	52,683	114,504	61,820	117.3%	63,745
	29,943	61,645	31,702	105.9%	31,992
受注残高	25,786	72,003	46,217	179.2%	45,401

- 売上高
  - ・電機業、流通業、運輸業向けセキュリティ製品販売の増加
  - ・学术研究機関向けハードウェア販売および公共事業向け製品販売の増加
  - ・通信業の特定顧客向け機器販売の減少
- 受注高
  - ・電機業、流通業、運輸業向けセキュリティ製品販売の増加
  - ・公共事業向け製品販売および生損保業、信販リース業向け機器販売の増加
  - ・通信業の特定顧客向け機器販売の減少
- 受注残高
  - ・学术研究機関向けハードウェア販売および生損保業向け機器販売の増加
  - ・通信業の特定顧客向け機器販売の減少

※コメントは、ネットワンシステムズ分の増減要因を除く

Copyright © SCSK Corporation 16

26年3月期 上半期決算 業種別 売上高



- 製造業は、自動車業向け戦略投資、電機業向け開発案件およびセキュリティ製品販売により増加
- 流通業は、基幹システム構築案件で反動減があったが、保守運用およびシステム販売により増加
- 金融業は、銀行業向けシステム販売の反動減および信販・リース業、生損保業向け開発案件の反動減にて減少
- 通信・運輸業は、通信業の特定顧客向け機器販売で減少があったが、開発案件の増加および運輸業向けセキュリティ製品販売により増加
- 電力・ガス業は、ほぼ前期並みで推移
- サービス業は、情報サービス業向け保守運用にて増加
- 公共業は、学術研究機関向けシステム販売にて増加

※コメントは、ネットワンシステムズ分の増減要因を除く

#### < 当資料利用上の留意点 >

- ・売上高前期比較(業種別)については、一部計上業種の見直しを行ったことにより、前年度の業種別売上金額を組み替えております。
- ・セグメント別業績については、当期にセグメント区分の変更を行っていることから、前年度の実績についても、変更後のセグメント区分に組み替えております。
- ・記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、％は、表示単位未満を四捨五入して表示しております。

#### < 免責事項 >

- ・本資料は、当社グループの業績及びグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- ・本説明会及び資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願い致します。

## 【ご参考】2025/8 ～ 2025/10



2025.10.22	SCSKのPROACTIVEにCO×COカルテのCO2自動算定機能を搭載 ～会計データだけでScope3上流まで可視化し、算定工数約8割削減へ～
2025.10.17	SCSKが IDC MarketScape の国内マネージドハイブリッド/マルチパブリッククラウドサービスにおいて「リーダー」に選出 ～広範なオファリングやパブリッククラウド事業者との協業関係でリーダー評価を獲得～
2025.10.14	SCSK、IT企業“初”のEVをJapan Mobility Showにて公開 ～IT企業がわずか 9 か月でクルマをつくる。ソフトウェアで“つくり方”から変える共創～
2025.10.01	「健康経営アライアンス」に業界を越えた500の企業・団体が集結
2025.09.30	日本プロセス株式会社の株式取得(持分法適用関連会社化)及び同社との資本業務提携に関するお知らせ
2025.09.26	連結子会社の株式取得(完全子会社化)および吸収合併(簡易合併)に関するお知らせ
2025.09.26	SCSKとServiceNow Japanが戦略的パートナーシップを強化し、2030年に向けた『次世代デジタル事業創出』を加速
2025.09.25	SCSK、100以上の生成AIアプリ・AIエージェントを搭載した生成AIプラットフォーム「Alli LLM App Market」でAllganize Japanと協業 ～お客様の業務効率化・イノベーション創出を支援～
2025.09.24	ソフトウェア特化型B2B市場「SDVerse」でSCSKのモビリティ製品・サービス販売開始 ～業界初の専用マーケットでグローバル展開～
2025.09.19	SuccessChain for ECMの提供開始 ～設計から製造まで、エンジニアリングチェーンの変革支援サービス～
2025.09.11	「世界を変えるIT会社になれ。」～2025年度テレビCMを9月13日(土)から放送開始～
2025.09.08	三菱UFJ銀行にAI活用ロールプレイングソリューション「iRolePlay」を提供 ～営業力強化と学習文化の変革を支援～
2025.09.04	SCSK、電通総研とタイ市場向け代理店契約を締結 ～CAEソリューションのグローバル展開を加速、アジアでの事業拡大を推進～
2025.08.27	お客様のメインフレーム・トランスフォーメーションの実現に向け国内初のIBM z17ホスティングサービスとして 「MF+ホスティングサービス(IBM z17)」の提供を開始
2025.08.05	SAPシステムの継続的な業務プロセス改善を支援「Add-Value for SAP Signavio」提供開始 ～業務標準化により、TCO削減とDXを推進～

